

## 地域コミュニティとしてのプレミアムクラブ

連載  
28

海外のフィットネス事業にも精通した設計/デザイナーである株式会社オーエルシージャパン代表取締役佐々木康昌氏。先日訪れた米国で印象に残ったことのほか、前号に続き自身が手がけた施設例を挙げる。リニューアルの際にも活用できる多くのヒントが紹介されている。

### 佐々木康昌

株式会社オーエルシージャパン 代表取締役



profile

◆ ささき・こうしょう  
一級建築士。1962年生まれ。'87年法政大学建築学科卒業後、安藤忠雄建築研究所入所。'90年OLC USA(デンバー)に入所、数々のスポーツフィットネス施設の設計実務を担当する。'97年より同社シニアプリンシパル(共同経営者)。'00年12月オーエルシージャパンを設立し、代表取締役に就く。'04年1月よりOLC DENVER副社長を兼務。主な担当プロジェクトにセントラルウェルネスクラブ(成城、日吉、西新井、川口、他)、ジェクサーフィットネスクラブ(赤羽、上野、東神奈川、他)、ロンドフィットネス&スパ東大和、他改修物件多数。  
TEL : 03-5251-8355  
FAX : 03-5251-8356  
Web : <http://www.olcjapan.com>  
E-mail : [ksasaki@olcjapan.com](mailto:ksasaki@olcjapan.com)

昨年末、SPORTEC2014において弊社もブースを構え、初日には施設改修に関するセミナーを行った。おかげさまで予約段階でほぼ満員となり、当日は参加できない方も出て、改修への関心の高さを再認識した次第だ。参加者は医療関係、学校関係の方々も多く、多様化が進んでいる印象を感じた。今年のSPORTECは7月末に拡大しての開催とのこと。改修、リノベーションにおいてもより多くの情報を発信していく予定なのでご期待いただきたい。

話は若干それるが、昨年秋、米国を訪れた際に感じたことを2点ほど紹介したい。フィットネスが生活に根付いていることを実感した事例である。

### 市庁舎の隣にフィットネス

米国では市役所などの行政機関がショッピングモール(以下、SC)に隣接している状況が最近増えてきている(写真1)。SC側としても集客、利便性、駐車場の相互利用などメリットは多い。デンバー郊外、イングルウッド市役所が数年前に新築されたのだが、隣にはバリー・トータルフィットネスができていた。昼休みには市庁舎から結構な人が来るとのことだ。やはり米国は民間と公共の垣根が低く、官民一体となった開発をしていることがみて

◆写真1



市庁舎の隣にフィットネスクラブ

とれる。

### フィットネスのフリー情報誌

スーパーの入り口に置いてあるフリーペーパーには、賃貸情報の不動産、車の情報誌、地域のフリー情報誌など5~6種類ほどが置いてある。そのなかになんとフィットネスの情報誌があるではないか。面白いことに1冊の雑誌であるが、片面の表紙が男性用、もう一方は女性用となっており、男女それぞれに向けた内容を掲載している。栄養からトレーニング方法、ジムの紹介など幅広い。特に目についたのが男性用の表紙である。一瞬、マッチョなありきたりの表紙かと思ったが、足が義足である(写真2)。イラク戦争の銃撃戦で片足を失ったが、それにめげずにやっている、という内容だ。フリーペーパーであるにも関わらずインパクトが大きく、かっこいい。脇にいた少年もこの本を見て「ママ、見て!」と言っていた。若い世代への影響は大きく、感動さえ与えるだろう。米国ではフィットネスはいまだ「かっこいい」のである。日本でもフィットネス産業に関わる皆さんにはかっこよくあってほしいものだ。

さて、前回に引き続き新規クラブについて紹介したい。今回も異業種から

◆写真2



スーパーにある情報誌(足に注目)

の参入、地域に根差したジム・スタジオ型が特徴のクラブである。

### 吉祥倶楽部

場所は、吉祥寺サンロードから一步入った繁華街、ロフトが入る話題性の高いビルの7階にある。INSPAが営業していたが、経営的にはいまひとつで、ビルオーナーはこのまま減衰の一途をたどるより、自分たちで開発した、新しいコンセプトのクラブをつくらうと模索していた。総合プロデュースに株式会社nokaio Japan代表森下晶夫氏を、そして設計デザインとして当社に白羽の矢がたった。施設のいくつかの特徴については本誌通巻第75号P74でも紹介されているので、ここでは設計、デザイン面を中心に紹介したい。

#### (1) ライフスタイル型のクラブ

このビルのオーナー企業、株式会社いなりやは、ロフトや飲食店が入居するビルを所有している。こうしたビルにはバブル期も経験している感性の高い方々が集まっている。特に女性である同社の八木佐知子社長の感性が高いため、そのデザイン目線を重視して設計した。八木社長自らが行きたくなるクラブ、継続できるクラブをイメージし、デザインしたともいえる。

そんな感性の高い方々の日常の利用に耐えうるアイテムで構成された「フィットネスとヒーリング」の空間。グレードとしてはティップネス丸の内スタイルやジュークサー東京をイメージし、都会の隠れ家的な要素を取り入れ、経験価値の高いライフスタイル型のクラブを目指した。それは改修というレベルでは実現できない。そのためほとんどを解体し、スケルトン状態から新規クラブとして作り直した。

#### (2) 印象的なフロントエリア

プレミアムなクラブほど印象的なフロントエリアをもっているものだ。この施設はビルの7階に位置するが、エレベーターから下りて最初に見えるのがフロントだ。ここはクラブの顔として、素材感のある石と濃い木でコントラストを出し、はっきりとしたフロントの構えをつくった(写真3)。そして次に見えるのが、その脇の通路。こ

◆写真3



印象的な  
フロントエリア

◆写真4



幻想的な  
ゲルマ  
ホット  
スタジオ

◆写真5



曲面に配置した  
ジム、天井エレメント

◆写真6



ヒマラヤ岩塩房

こは折上げ天井と照明で、どこまでも続くかのような回廊をデザインし、奥行き感を増し、印象的な空間に仕上げた。

#### <鏡の効果①>

この回廊、一番奥に天井まで鏡を貼り、30mほどの通路が倍の60mに見えるようにすることで、無限に近い奥行き感を与えている。ここでは鏡を折り上げに沿ってしっかり貼ることや、照明の配置を最後は映り込みを考慮し半分にするなどの配慮により、この奥行き感を実現させている。

#### (3) ゲルマホットスタジオ

ゲルマ鉱石を敷き詰めた、主にヨガを主体に行うホットスタジオである(写真4)。珪藻土の壁の質感もあって、自然な重厚感があり、いるだけで「効きそう」な空間である。ここでは暗めの空間を活かして幻想感をもたせようと、床面の柔らかな間接光と天井を円形にくり抜いた間接光をメインとした。横になったときにゆったりとできるデザインである。

#### <鏡の効果②>

ここでの鏡は枠に入れ、2面にL型に配置。鏡の下枠のみに間接光を入れることで浮遊感を出し、お互いを映り込ませることで広さを演出し、非日常性を高める空間が実現している。

#### (4) 広がりのあるジムエリア

マシンは円の中心を向くような配置とし、床パターンもそれに合わせている(写真5)。空間の一番奥をわずかに見えなくすることで、その先もつながっているような、広がり感を演出

している。空間にフォーカルをつくるため、楕円の天井エレメントを奥につくった。この下はラウンジスペースとなっているが、空間にリズムをつくる点でもメリットがある。

#### (5) ヒマラヤ岩盤房

積み上げた岩塩のブロック、その大きな壁が光を通し、幻想的に輝いている異空間だ(写真6)。ここは株式会社凱設計のデザイン・施工である。余計な照明はなく、象徴的に輝く岩塩からの光だけであり、目を閉じリラックスすると、ここが日本であることを忘れるほどだ。

#### (6) ロッカー、浴室にはグレード感を

浴室は清潔感のなかにグレード感を感じられる構成とした。色は白や淡いベージュを基調にし、ベンチなど置き家具の質を高め、大き目のロッカーやスペースを広くとり、ゆったりとしたグレード感を演出している。

#### まとめ

全体的にはプレミアムな隠れ家として、幾つかの異空間を用意し、ここならではの体験、ホスピタリティを感じるデザインとしている。ディテールまで配慮した建築エレメントとグレード感。さらに、エッジの効いたコンテンツは周囲と比較しても圧倒的に高く、このクラブの評判は徐々に広がっていくと確信している。

ブログでは掲載できなかった写真も紹介しているのでぜひご覧いただきたい。「KOSHO SASAKI」で検索。